

Q. 前職は？

印刷会社に勤務し、市役所や銀行、病院などで扱う書類を印刷していました。それ以前も、高校時代のコンビニでのアルバイトに始まり、ケーキ屋、本屋、文房具屋などの接客業、製造業など複数の職を経験しました。

Q. 就職後、どのように福祉の知識・技術を身に付けましたか？

施設からのサポートはありましたか？

就職する前は、友人にもらった教科書12冊を使って独学で知識を身に付けました。就職後は、「プリセプター制度」という教育制度があり、1対1で先輩が付き、1年間指導してくれました。教科書通りにはいかないことも多く介護の難しさを感じましたが、先輩の丁寧なフォローのおかげで乗り越えてこれたと感じています。

Q. 前職の知識や経験は活かせますか？

接客業でのコミュニケーションの経験が活きていると思います。また、印刷会社で行っていたエクセルを使った在庫管理を応用し、施設内のオムツの在庫管理や発注作業を担当しています。

Q. 今後の目標はありますか？

入社して4年がたち、介護福祉士の資格が取得できました。でもこれがゴールだとは思っていません。日々勉強を続け、認知症介助士やレクリエーション介護士1級の取得を目指します。また趣味で音楽をやっているのですが、コロナ禍が明けたら利用者の中でコンサートなどを開き、たくさんの笑顔を見たいです。

Q. 福祉の仕事を目指す方へのメッセージ。

最初は人と人の関係づくりが大変かもしれませんが、良い関係を築くことができた時には家族のような温かい空間が生まれ、心地良く働けますよ。



神谷 洸太さん
社会福祉法人遠江厚生園
特別養護老人ホーム遠州の園

神谷 洸太さんにインタビュー

自分に合う仕事に悩む中、お年寄りへの感謝がきっかけに。

高校卒業後、様々な業界、職種を経験した神谷さん。何が自分にあった仕事なのか、悩み迷う日々を過ごしていたそうです。そんな中、強い意志で看護師を目指し、友人の姿に感化され、「自分も人の役に立ちたい」と思うように。元々、父が家庭で祖父母に育てられたこと、コンビニで働いていた時に地域のお年寄りの方が常連で「頑張ってるね」と声を掛けてもらった経験からお年寄りへの感謝の気持ちで介護の仕事への憧れにつながっていきました。

「ありがとう」をダイレクトにもらえる「天職」。

介護の仕事に就いた同級生に相談すると、学生時代に使っていた教科書を譲ってもらえることになったのだそう。なんと独学で勉強を始め、本格的にこの道に進

むことになりました。本当にできるのか不安はあったものの、面接の際「未経験でもお年寄りを思う気持ちがあれば大丈夫」と言ってもらい「それなら誰にも負けない！」と決意を固めたと言います。介護職は「ありがとう」がダイレクトに伝わってくる、毎日5回以上は笑顔をもたらえる仕事だと神谷さん。利用者から「こんにちは」ではなく「おかげさうございます」と言ってもらった時には、身近な存在になれたと感じたそうです。働き始めて4年。以前のように悩むことはなく、天職だと思えると、幸せそうな表情で話してくれました。

